

ブナを育成する会 「水と森の分校」

目標

自然との関わりなどを学習して、すばらしい所に生まれ
たんだと誇りを持たせて、森を含めた自然は自分の宝な
んだと気づかせたい。



大山ふれあいの森

植えよう、育てよう、ブナの森 /



ブナの森はきれいな空気を作り、豊かな水を抱き、
私達の命を守ってくれています。私達は今、その森
の恩恵を受け、未来に渡していく途中にいます。
元気な森を育てて伝えていくために、**ブナの木**を
中心とした森づくり活動を推進しています。

大山横手道上ブナを育成する会
林野庁 鳥取森林管理署

水と森の分校

伯耆町立八郷小学校4年生 10～18人(別引率2名)
校外学習に協力 4回 / 年 (3～3.5時間 / 回)

- (1) 水の学習
- (2) 森の学習
- (3) 木を植える学習
- (4) 冬の森の学習

その他

森と水に親しむ学校 (共催:米子地区少年健全育成指導員協会)

8月 小学生40名 保護者及び米子警察署、先生、指導員の総勢70名

水と森の分校のカリキュラム(1)～(3)を 6 時間で行う

ドイツ少年との交流 (環境学習会担当)

毎年 8月に行っている

森と水の分校 体験水

11度の湧き水

山の下から湧いてくる



400m間で湧いて、
19.4万トン/日

ふもとの米子の水は 日本一
19.4万トンの水で どんな量なの？

日本人 人/日 300Lの生活用水
60万人分に相当する。米子市、境港市、の2.5日分

3

手入れの出来てない森 放置された森



草 1本ない

4

ブナの森へ

ブナ林の説明

腐葉土 1センチが100年

森の中の明るさ、その周りの植物、
生きものの想像、腐葉土中の生物
など

聴診器を当てて、
水の流れる音を聴
きました



自然との対話能力
にスイッチを入れる
(5感能力の開発)



最後に給食を食べながら感想を語る

5

子供たち ミゾレの中で頑張っています



苗の準備

今年3回目の校外授業
考えがしっかりしてきた。
学校自体も5年目になると、子
どもたちへの事前準備も万全



大きい石をのける



7

効果

- : 1学期終わりごろから子供たちに変化
「5感」という言葉を何の抵抗もなくすんなりと使い出す。
(1日コースの子供たちにはこんなところまで行かない)
- : 3回目のブナを植える体験林業の頃になると
見ても、話しても たくましくて頼もしくなって行くのが分かる。
- : 4年生を終えるときには感受性豊かな打てば響くような子供に成長している。
- : 森を含めた自然は自分の宝なんだと気づいて進級している。
- : 同じ学校で何年も続けていると、子供たちも、先生達も当に
「継続は力なり」という言葉どおり自力が付いてきている。
- : 「ふるさと八郷」、子供たちが作詞し、先生が作曲
評判がよくて学校内外でも歌われている。
- : 学校表彰 全日本学校関係緑化コンクール準特選
鳥取県美しいもりづくり功労者

特別: ブナを育成する会員のモチベーションアップにも効果があった。

8

今後

学校と連携を密にしながら継続をしていく

森の学習に 今も残る胴回り3～6mもあるケヤキが乱立している里
山の見学を組み込みたい

学年を変えて

将来の水を守る方法を一緒に考えていきたい

世界の水事情の教育 ……机上教育

節水教育……………体験

日本人の生活用水の平均使用量は300L / 日

ドイツ人の生活用水の平均使用量は100L / 日

人間らしい生活をするために最低限必要な量は50L / 日

1日100L / 日の生活体験

水ジャーナリスト橋本淳司先生の指導で考えたい